

- 庄内地域では、温暖な気象条件を活用したアスパラガスのハウス長期どり栽培の作付が近年徐々に増加している。
- しかしながら、全体の単収が伸び悩んでいることや新規生産者の早期技術習得等が課題となっていた。
- このため、令和3年度に庄内地域の各JA・市町等で構成する「庄内アスパラガス産地強化プロジェクト」を立ち上げ、技術や販売促進等、各種の支援を行ってきた。
- これらの取組みにより、令和6年度までに出荷量2割・販売金額1億円の増を目指している。

具体的な成果

1. 生産拡大と成園化を目指した新規生産者の技術習得

■R4年度管内のハウスアスパラガス作付面積は、12.7ha(R1対比128%)、販売金額は2.2億円(R1対比128%)と増加した。

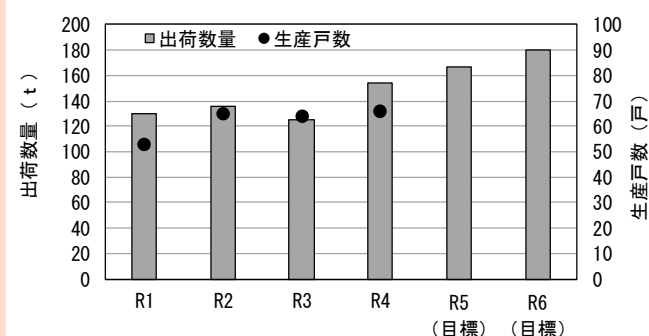


図 酒田飽海管内の出荷数量と生産戸数の推移

2. 高収量を実現している生産者の栽培管理の解析と「見える化」及び情報共有

■R3年度に管内2JAに各1か所、多収栽培技術実証圃を設置、機器を用いて栽培環境をモニタリングし、生産者・JA担当者と情報共有を図るとともに、データをもとに栽培改善を進めた。その結果、R4年度の実証圃単収は3.36t/10aとなり、県指標の153%と高い収量を確保できた。

3. 庄内地域全域への産地拡大の推進

■庄内アスパラガス産地強化プロジェクトでは、現地検討会や実績検討会を開催し、生産者や関係機関への情報提供や情報共有を図ることができた。

普及指導員の活動

令和3年度

■庄内地域の関係機関で構成する「庄内アスパラガス産地強化プロジェクト」を当課が中心となって設立。

■プロジェクトにおいて、多収栽培技術実証圃において現地検討会及び実績検討会等を開催。

■「庄内ハウスアスパラガス栽培だより」を年8回発行し、新規生産者を中心に圃場巡回、栽培講習会を実施。

■環境モニタリングを行い、データ収集・解析を実施。



令和4年度

■令和3年度の活動を継続して実施するとともに、新たに研究成果を生かした早期成園化実証圃を設置して圃場巡回等で生産者・関係機関の情報共有を図った。

普及指導員だからできたこと

■生産者組織やJA、各市町、県関係機関等とプロジェクト活動を行う中で、これまで個々で活動を行ってきたことを情報共有し、ハウスアスパラガスの生産拡大に向けた意識情勢がなされた。

庄内アスパラガスの産地強化

活動期間：令和 3～6 年度（継続中）

1. 取組の背景

庄内地域では、県内の他地域と比べて温暖な気象条件を活用し、アスパラガスのハウス長期どり栽培の作付が徐々に増加している。管内の R1 年の作付面積は 9.9ha、販売金額は約 1.72 億円（酒田農業技術普及課調べ）となっており、さらに生産拡大の推進を図り、R6 年の作付面積 12.8ha、販売金額 2.6 億円を目指している。一方、これまで一般的には、収穫開始 1 年目（定植 2 年目）から 3 年目（定植 4 年目）までの収量は、それぞれ 0.4t、0.8t、1.3t/10a と低いことが課題となっていた。そのため、成園化を順調に進めるよう、ハウス栽培に適した栽培技術の確立と新規生産者の早期技術習得、所得向上を支援する必要があった。

そこで、技術情報「庄内ハウスアスパラガス栽培だより」のタイムリーな発行、栽培初心者を中心とした圃場巡回指導、高収量を実現している生産者の栽培環境の「見える化」と解析及び情報共有に、JA 担当者と連携し取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）生産拡大と成園化を目指した新規生産者の技術習得

栽培初心者を中心に JA 担当者と一緒に、特に立茎管理のポイントについて重点的に個別巡回指導（4～11 月、13 回、延べ 62 人）を行った（写真 1）。また、栽培管理のポイントをまとめた技術情報「庄内ハウスアスパラガス栽培だより」を発行（2～10 月、8 回）し、各組織を通じて生産者へ情報提供し、適期管理を推進した。さらに、栽培志向者・初心者向けの栽培研修会（12 月、12 人参加）は、アスパラガス試験圃場がある庄内総合支庁産地研究室を会場として開催した（写真 2）。

（2）高収量を実現している生産者の栽培管理の「見える化」と解析及び情報共有

JA 庄内みどり管内、JA そでうら管内、各 1 か所に多収栽培技術実証圃を設置し、ハウス環境モニタリング機器「あぐりログ」（株式会社 IT 工房 Z 社製）でハウス内温度、地温、土壌水分および土壌 EC 等のデータを測定・記録した。お互いのデータを比較できるように設定し、週 1 回、簡易測定している温度データと土壌溶液測定結果をスマートフォンやパソコン等で実証圃担当者、JA 担当者と情報共有した。栽培初心者の圃場 1 か所では簡易なモニタリングを継続し、週 1 回、栽培管理について個別指導を行った。さらに、多収技術実証圃では、春芽の収穫時期にハウスサイドの自動巻き上げ換気装置による温度管理を実証し、省力化技術の展示も行った。

（3）庄内地域全域への産地拡大の推進

庄内地域の各 JA や 5 市町にも声掛けし、「庄内アスパラガス産地強化プロジェクトチーム」として活動した。4 月にプロジェクトチーム会議を、7 月に現地検討会を開催し、多収技術（環境モニタリング）実証圃の状況（灌水管

理や立茎管理、高温対策等）と併せて庄内総合支庁産地研究室の栽培 2 年目の圃場を視察し、意見交換を行った。また、1 月には実績検討会を開催し、栽培環境のモニタリング結果や庄内総合支庁産地研究室の研究成果（早期成園化技術）の導入上の課題等を出席者で意見交換し、情報共有した。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）生産拡大と成園化を目指した新規生産者の技術習得

R4 年 12 月現在の管内の作付面積は 12.7ha（R1 対比 128%）、販売金額は約 2.2 億円（R1 対比 128%）まで増加した。R2～4 年度の補助事業等の利用によるハウスの新設は、生産者 4 人、11 棟約 4,582 m²となっている。

R4 年度は「庄内ハウスアスパラガス栽培だより」の発行を 8 回行うとともに、栽培初心者を中心に 13 回の現地巡回指導を行ったことで、収穫開始 1 年～2 年目の生産者・法人 3 経営体の平均収量は本課題に取り組む前の 2 倍相当の 1.6t/10a 程度まで向上した。

R4 年度の栽培志向者・栽培初心者向けの栽培講習会には 12 人（栽培志向者 2 名含む）が参加し、適切に管理された株の状況を実際に見ながら、刈取り時期までに株を維持し養分転流を促進する灌水管理や防除などの株養成のポイントについて理解を深めた。

（2）高収量を実現している生産者の栽培管理の「見える化」と解析及び情報共有

多収技術実証圃の栽培環境モニタリングを行い、生産者、JA 担当者と情報共有を図り、改善を進めた。R3 年の株管理が適切であったことと、前年の栽培モニタリングデータを参考に R4 年の温度・灌水管理が改善されたことにより、R4 年の実証圃（2 か所平均）の収量は 3.36t/10a となり、県指標の 153%と高い収量が確保できた。

（3）庄内地域全域への産地拡大の推進

庄内アスパラガス産地強化プロジェクトで開催した現地検討会には、管内生産者 19 人が参加した。多収技術実証圃では灌水管理、立茎管理などの栽培管理のポイント、庄内総合支庁産地研究室の試験圃場ではアスパラガスの生理生態的特性を理解するため、栽培期間中の株のりん芽の発達・成長の状況を観察・情報共有できた。

実績検討会には実証圃担当者 3 人も参加し、栽培環境のモニタリング結果や早期成園化技術の導入上の課題等を意見交換でき、組織を牽引する中核的農業者等の栽培意欲の向上につながった。



写真 1 栽培初心者への現地指導
(R4. 4. 28)



写真 2 栽培志向者・初心者向け研修会
(R4. 12. 22)

4. 農家等からの評価・コメント（遊佐町 三浦広和氏）

ハウス環境のモニタリング機器（あぐりログ）での測定により土壌溶液 EC や土壌水分に大きな変化がなく管理ができた。また、特に、春芽の収穫時期に実証したハウスサイドの自動巻上げ換気装置については、天候が変わりやすい春先のこまめな温度管理を実施でき、安心感があった。

5. 普及指導員のコメント

（酒田農業技術普及課・主任専門普及指導員・千葉更索）

生産者組織や JA、各市町、県関係機関等とプロジェクト活動を行う中で、これまで個々で活動を行ってきたことを情報共有し、ハウスアスパラガスの生産拡大に向けた意識統一がなされたと感じている。

6. 現状・今後の展開等

（1）早期成園化技術の普及と新規生産者の技術習得支援

新規生産者および栽培初心者、作付拡大者の早期成園化を図り、収量を確保するため、重点指導対象を設定し、早期成園化実証圃を活用した現地巡回指導（3月～12月、6回）、早期成園化技術の現地研修会（7月）を行っている。さらに「庄内ハウスアスパラガス栽培だより」（2月～10月、8回）の発行により適期管理を推進し、栽培志向者・初心者向けの栽培研修会（12月、1回）を開催し、技術習得の支援を行う。

（2）多収技術の実証・普及による産地強化の推進

継続して多収技術実証圃のハウス環境のモニタリング（多収栽培者2か所、栽培初心者1か所）を行い、データを解析し、栽培管理や栽培初心者への現地指導に活かす。また、「庄内アスパラガス産地強化プロジェクトチーム」活動を進め、計画・実績検討会（4月・1月）、現地検討会（7月）をプロジェクトの構成機関等と連携して開催し、多収技術と早期成園化技術について、庄内地域の生産者へ周知を図っていく。